

一〇二三年八月一八日

露天湯の頭上に群るる赤とんぼ
野良猫の視線の先に瑠璃蜥蜴
階をなせる段丘蕎麦の花
裏山の影襖なす星月夜

一〇二三年八月一七日

法話聞きながら舟漕ぐ秋遍路
野分去り街の灯りの澄みまさり
引き潮を追ひし足跡秋の浜

一〇二三年八月一六日

大嵐過ぎて安堵の送り盆
蜩の降り注ぐやに大樽
麦わら帽被り父似の羅漢あり
漆黒の闇に揺らめく五山の火

一〇二三年八月一五日

あるなしの風に大仰蓮広葉
峠茶屋松の梢に氷旗
山頂の夜景に揚がる遠花火

一〇二三年八月一四日

海峡の渦せめぎ合ふ瀬戸の秋
みな美女に見ゆる編み笠風の盆
匂帳手に道草しつつ墓参り
眠ることも仕事よと笑む生身魂

愛正

こすもす

一〇二三年八月一三日

とれとれの野菜を供へ盆供養

たか子

一〇二三年八月一二日

風いなす早稲の穂波のはや重し

素秀

屹立す杉美林より鹿の笛

素秀

毎日句会みのる選・一〇二三年八月二〇日

なつき
はく子
なつき

うつぎ
むべ
なつき

千鶴
千鶴
千鶴

もとこ
千鶴
かえる
こすもす